ＪＡＳＲＡＣ寄付科目講師プロフィール

（アイウエオ順　敬称略）

川上量生（ドワンゴ会長） 	1997 年、オンラインゲームに特化したゲーム会社としてドワンゴを起業。のちに携帯電話向けサービス「いろメロミックス」などをヒットさせ，ドワンゴを東証一部上場企業へと成長させた。近年では，ニコニコ動画の企画・運営にも携わる。 2011 年 1 月にスタジオジブリにてプロデューサー見習いとして鈴木敏夫氏に師事。政府の知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会委員も務める。
岸博幸（慶應義塾大学大学院教授） 	1986 年通商産業省（現在の経済産業省）入省後、竹中平蔵大臣（経済財政政策担当大臣、総務大臣）の補佐官、政務担当秘書官。退官し、現在慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授。コロンビア大学経営大学院修了（ＭＢＡ）。 「太田光の私が総理大臣になったら…秘書田中。（日本テレビ）」 、「ビートたけしの TV タックル（テレビ朝日）」などに パネラーとして出演中。著書としては、「アマゾン、アップルが日本を蝕む」（ＰＨＰビジネス新書）、「ブレインの戦術 政界を動かした秘書官のテクニック」（あさ出版）、「ネット帝国主義と日本の敗北　―搾取されるカネと文化―」（幻冬舎新書）など。
北田暢也（JASRAC 常任理事） 	1978 年社団法人日本音楽著作権協会入社後、大阪支部副支部長、企画部長、総務本部副本部長等を経て、2010 年より常任理事。 主な論文は「日本音楽著作権協会著作権信託契約約款の改正」（「逐条解説著作権等管理事業法」収録、有斐閣 2001）、「ネットワーク時代における著作権管理事業の役割と現状」（「デジタルコンテンツの権利処理と契約に関する調査研究報告書」収録、（財）ソフトウエア情報センター2002）など。
椎名和夫（公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会常務理事、同実演家著作隣接権センター運営委員） 	1973 年吉田美奈子のサポートセッションとしてプロデビュー。その後、竹内まりや、井上陽水、RC サクセション、中島みゆき、来生たかお、徳永英明、アン・ルイス、SMAP、和田アキ子、BEGIN 等の楽曲の編曲を担当。1986 年には、中森明菜「DESIRE」で日本レコード大賞編曲賞。 また作曲家としても、中島みゆき、アグネス・チャン、キャンディーズ等に作品を提供。また、山下達郎、中島みゆき、井上陽水らのライブサポートも行う。 現在公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会 常務理事、同実演家著作隣接権センター運営委員のほか、文化庁文化審議会著作権分科会専門委員などを務める。
千住明（作曲家） 	1960 年東京生まれ。東京藝術大学作曲科卒業。同大学院を首席で修了。修了作品「EDEN」は史上 8 人目の東京藝術大学買上、東京藝術大学大学美術館(芸術資料館)に永久保存。代表作に羽田空港環境音楽「四季」やオペラ「隅田川」「万葉集」など。ドラマ「ほんまもん」「砂の器」「風林火山」「GOLD」「99 年の愛」、映画「愛を乞うひと」「黄泉がえり」、アニメ「機動戦士Ｖガンダム」「雪の女王」「鉄人 28 号」「鋼の錬金術師 FA」「マジック・ツリーハウス」等多数の音楽も担当。作曲家・編曲家・音楽プロデューサーとして幅広くグローバルに活躍。 ３度の日本アカデミー賞優秀音楽賞等受賞歴多数。東京音楽大学客員教授。2011 年 4 月より NHK「日曜美術館」キャスター。

谷口元（エイベックス・ミュージック・パブリッシング（株）社長） 	1986 年（株）エイプリルミュージック（現ソニー・ミュージック・アーティスツ）入社。その後エイベックス・ディーディー（株）に移り、取締役・国際本部国際部長、エイベックス・グループ・ホールディングス（株）取締役兼国際戦略室長兼知財戦略室長などを経て、現在エイベックス・ミュージック・パブリッシング（株）代表取締役社長。一般社団法人日本音楽出版社協会会長、財団法人音楽産業・文化振興財団副理事長、政府の知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会委員なども務める。
津田大介（ジャーナリスト／メディアアクティビスト） 	早稲田大学社会科学部卒。関西大学総合情報学部特任教授。早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコース非常勤講師。一般社団法人インターネットユーザー協会（MIAU）代表理事。 IT・ネットサービスやネットカルチャー、ネットジャーナリズム、著作権問題、コンテンツビジネス論などを専門分野に執筆活動を行う。 2006～08 年まで文化審議会著作権分科会の専門委員を務め、ポップカルチャーのニュースサイト「ナタリー」の設立・運営にも携わる。 主な著書に『Twitter 社会論』（洋泉社）、『情報の呼吸法』（朝日出版社）、新刊『動員の革命』（中央公論新社）など。2011 年 9 月より週刊メールマガジン「津田大介の『メディアの現場』」の配信を開始。
中村伊知哉（慶應義塾大学大学院教授） 	1984 年郵政省（現在の総務省）入省後、退官し渡米。MIT メディアラボ客員教授を経て、スタンフォード日本センター研究所長。2006 年より慶應義塾大学教授。 現在内閣官房知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会会長、情報通信審議会専門委員、文化審議会著作権分科会専門委員などの公職のほか、ミクシィ社外取締役などを兼務。 著書に『中村伊知哉の「新世紀 IT ビジネス進化論」』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『通信と放送の融合のこれから』（翔泳社）、『デジタルのおもちゃ箱』（NTT 出版）、『インターネット、自由を我等に』（アスキー出版局）など。テレビ出演として、NHK-BS1「COOL JAPANー発掘!かっこいいニッポンー」など。
田口重憲（文化庁長官官房著作権課長） 	1989 年文部省（現文部科学省）入省後、文化庁長官官房著作権課、横浜国立大学大学院国際社会科学研究科助教授（著作権法等知的財産法担当）、科学技術・学術政策局企画官、内閣官房行政改革推進室参事官などを経て、2012 年 8 月より文化庁長官官房著作権課長（現職）。
野口祐子（弁護士） 	1996 年東京大学法学部卒業後、2005 年アメリカ合衆国スタンフォード・ロー・スクール博士課程(J.S.D.)修了。この間ローレンス・レッシング教授に師事。現在、文化庁著作権分科会国際小委員会、経済産業省日本工業標準調査会臨時委員などのほか、東京放送(TBS)番組審議会副委員長。また、現在国立情報学研究所客員准教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府非常勤講師、慶應義塾大学ＳＦＣ研究所上席研究員や、NPO 法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン常務理事を務める。 著書に「ブックビジネス 2.0 ウェブ時代の新しい本の生態系」（共著、実業之日本社）、「ソフトロー研究叢書第 4 巻知的財産とソフトロー」（共著、有斐閣）「デジタル時代の著作権」（筑摩新書）など。

福井健策（弁護士） 	1991 年東京大学法学部卒業後、コロンビア大学法学修士課程修了。米国ニューヨーク州弁護士。現在骨董通り法律事務所代表パートナー。日本大学芸術学部客員教授のほか、東京藝術大学非常勤講師（2004 年-）を務める。 現在国立国会図書館納本制度審議会委員、同オンライン資料補償小委員会委員長代償金部会長代理、文化庁「著作物等のネットワーク流通促進のための意思表示システムの在り方に関する調査研究」主査（2011 年-）など。 著書には、「なんでコンテンツにカネを払うのさ？ デジタル時代のぼくらの著作権入門」（共著・阪急コミュニケーションズ）、「著作権の世紀～変わる『情報の独占制度』」（集英社新書）、「著作権とは何か～文化と創造のゆくえ」（集英社新書）、「契約の教科書」（文春新書）など。また「著作権保護期間の延長問題を考えるフォーラム（Think C）」世話人（2006 年-）。
甲野正道（明治大学理事長付特任補佐） 	1981 年文部省（現在の文部科学省）入省後、内閣官房内閣参事官（知的財産基本法準備室、知的財産戦略推進事務局）等をへて、2005 年から 7 年まで文化庁著作権課長を務め、2010 年より東北大学理事。2012 年 8 月より明治大学理事長付特任補佐。この間慶應義塾大学メディアデザイン研究科特別招聘教授（2008－2010）。著書に「現場で使える美術著作権ガイド」（共著、ブリュッケ）。